広田遺跡ミュージアム館報

第４号

令和２年３月

南種子町広田遺跡ミュージアム

はじめに

本号は、令和にはいり、最初の館報となります。今年度より、国選択となった「種子島の盆踊」の記録調査事業が開始されました。特に、南種子町西之の本国寺盆踊は、日本の古い盆踊の姿をそのまま残す、大変貴重なものであり、しっかりとした調査を行い、その価値を報告書にまとめる必要があります。

また、昨年、明治維新 150 周年を記念して行った「才川周右衛門日記」の調査では、参加した種子島中央高校の鎌田廉正さんが、全国高校生地歴フォーラム（通称：地歴甲子園）にて、応募総数 158 点の中から、最優秀賞を受賞されました。次世代を担う子どもたちとともに行ってきた当館の活動が実を結んだものであり、高く評価されるものです。

今年度は、夜の博物館を体験していただく、ナイト・ミュージアムを広田遺跡語り部の会の皆様とともに、初開催したところ、250 名以上の方々が参加され、大盛況となりました。語り部の会では、遺跡のことだけでなく、島の民俗も語り伝えるなど幅広い活動をされておりますが、ナイト・ミュージアムにおいても、すばらしい発想と行動力を発揮されました。心より感謝申し上げます。

論考については、稗畠悦朗氏（南種子町文化財保護審議委員）が「海浜性ハンミョウ」について、これまでの長年にわたる現地調査の蓄積から、生息地と生態、学術的な価値について寄稿いただきました。この論考が裏付けとなり、郡川流域の「海浜性ハンミョウ生息地」が文化財に指定されるなど素晴らしい調査成果であると感じております。

最後になりましたが、本館の運営につきまして、多くの皆様方のご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝いたします。今後とも皆様方のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月 30 日

広田遺跡ミュージアム　館長　松山　砂夫

目　　次

第１章　館の概要

第１節　館の概要と組織 …… P3

（１）　館職員数内訳

（２）　館職員名簿

（３）　南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

（４）　館職員事務分掌

第２節　利用状況 …… P4

第２章　館の事業

第１節　展示 …… P4 ～ P5

（１）　企画展

（２）　イベント

第２節　教育･普及啓発 …… P5 ～ P7

（１）　広田遺跡ミュージアム　ジュニア学芸員

（２）　たねがしま古代塾

（３）　広田遺跡ミュージアム講座

（４）　学校講座、出前講座

（５）　研修・博物館実習・職場体験等

第３節　管理・運営 …… P7 ～ P9

（１）　広田遺跡語り部の会

（２）　視察

（３）　その他

第４節　調査・研究 …… P9 ～ P15

（１）　調査・研究

（２）　研究報告

「種子島南種子町における海浜性ハンミョウの生息地について」

南種子町文化財保護審議会　委員　稗畠悦朗

写真図版１～５

第１章　館の概要

第１節　館の概要と組織

（１）館職員数内訳

令和元年度

役職	専任正職	兼任正職	非常勤	専任契約	計
名誉館長			1		1
館長		1			1
学芸員	1	1			2
庶務係長		1			1
学芸員補				2	2
合計	1	3	1	2	7

※上記の他、語り部を１日１名雇用している。
※常任の学芸員１名を配置する博物館相当施設である。

（２）館職員名簿

役職	令和元年度
名誉館長	下野敏見
館長	松山砂夫、社会教育課長兼務
副館長	館長兼務
学芸員（専任）	石堂和博
学芸員（兼任）	小脇有希乃（町埋蔵文化財センター学芸員兼務）
庶務係長（兼任）	才川いずみ（文化係長兼務）
学芸員補（学芸）	牛野夢美（５月～３月）
学芸員補（庶務）	小園菜穂子

（３）南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

○委員名簿

役　職	令和元年度		
会　長	長田忠	副会長	柳田和則
委　員	日高友典、岩澤昭文、稗畠悦朗		

開催日：平成 31 年 4 月 10 日 (水)
場　所：南種子町研修センター２階西側会議室
協　議：・入館者等状況、平成 30 年度事業実績、令和元年度事業計画、運営計画、重要文化財等

（４）館職員事務分掌

役職	氏名	主な職務分掌
名誉館長	下野敏見	博物館事業に関する助言
館長	松山砂夫（社会教育課長兼任）	館の運営管理の総括に関すること
副館長	同上	館長職務の補佐
学芸員（専任）	石堂和博	常設展示・特別展示に関すること 資料の収集・保管に関すること 重要文化財の保管に関すること 館報・図録その他刊行物の作成に関すること 専門的調査・研究に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 運営協議会に関すること 史跡公園の管理に関すること 体験学習に関すること 他の施設、学校等との連携に関すること
学芸員（兼任）	小脇有希乃	普及啓発・講座・広報等に関すること
庶務係長（兼任）	才川いずみ（文化係長兼任）	予算の編成執行に関すること 館の管理に関すること 予算経理、ミュージアムショップその他庶務の総括に関すること
学芸員補（学芸）	牛野夢美	普及啓発・講座・広報等に関すること 資料の収集・保管に関すること 館、史跡公園の案内業務に関すること 受付・観覧料等の徴収に関すること
学芸員補（庶務）	小園菜穂子	受付・観覧料等の徴収に関すること 予算経理、ミュージアムショップその他庶務に関すること 館、史跡公園の清掃及び管理に関すること 体験学習に関すること
語り部	長田君應ほか７名	館、史跡公園の案内業務に関すること 館、史跡公園の清掃及び管理に関すること

組織図

館長　－　副館長　－　学芸員　－　学芸員補
（専任・兼任）（学芸担当）
庶務係長 －学芸員補
（兼任）（庶務担当）
南種子町広田遺跡ミュージアム協議会、名誉館長

第２節　利用状況

（１）　利用者数

年度	利用者数 (人)	町内	町外
26	2,429	1,268	1,161
27	11,225	3,064	8,161
28	7,226	1,899	5,327
29	7,520	1,619	5,901
30	6,194	1,231	4,963

（２）体験学習利用者数

平成 27 年度　981 名、350,500 円
（ 初 級 775 名　232,500 円、 中 級 176 名 88,000 円、上級 30 名　30,000 円）
平成 28 年度　805 名　340,600 円
（ 初 級 402 名　120,600 円、 中 級 366 名 183,000 円、上級 37 名　37,000 円）
平成 29 年度　699 名　275,100 円
（ 初 級 442 名　132,600 円、 中 級 229 名 114,500 円、上級 28 名　28,000 円）
平成 30 年度　548 名、229,400 円
（ 初 級 313 名　93,900 円、 中 級 203 名 101,500 円、上級 31 名　31,000 円、特設 1 3,000 円）

（３）書籍販売

平成 27 年度　売り上げ：53,500 円
（郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 6 冊、南種子の民俗 9 冊、南種子の民具 6 冊、南種子の文化財 6 冊、南種子の文化財 21 冊）
平成 28 年度　売り上げ：34,000 円
（郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 2 冊、南種子の民俗 7 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 6 冊、南種子の文化財 18 冊）
平成 29 年度　売り上げ：31,500 円
（郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 3 冊、南種子の民俗 5 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 8 冊、広田遺跡ミュージアム館報 3 冊）
平成 30 年度　売り上げ：41,500 円
（郷土誌 0 冊、広田遺跡報告書 6 冊、南種子の民俗 2 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 11 冊、広田遺跡ミュージアム館報 4 冊、南種子の神社仏閣 24 冊）

（４）開館日数

平成 27 年度　315 日
平成 28 年度　314 日
平成 29 年度　308 日
平成 30 年度　314 日

第２章　館の事業

第１節　展示

（１）企画展

○企画展：島×宇宙芸術祭　展
期　間：令和元年 10 月 19 日
　　～令和 2 年 1 月 24 日
目　的：「こども宇宙芸術 2012」からはじまり、「種子島宇宙芸術祭 2019」で 8 年目を迎えた「宇宙芸術祭」。種子島で開催されている、この芸術祭は島にどのような影響を与えてきたのか。「種子島宇宙芸術祭 2017」でアーティスト千田泰広と共に南種子町大川に 1 ヶ月半滞在し、千田の作品制作に携わりながら、島を描き続けた画家「北見美佳」。本展は、北見美佳という画家の眼を通して、島と宇宙芸術祭の関係性を感じていただくことを目的とする。
入館者数：1,784 人
内　容：北見美佳氏作品設置
　　10 月 8 日～ 11 日
　　北見美佳アーティストトーク
　　10 月 10 日 13 時 30 分～
　　場所：企画展示コーナー

○島×宇宙芸術祭　特別イベント
「ナイト・ミュージアム」
期日：令和 2 年 1 月 18 日（土）18 時 30 分～ 20 時 30 分
内容：広田遺跡は、墓地の遺跡であるが、当時、この地域に生活していた古代種子島人は、家に住み、食糧を求め野山を駆け巡り、恋などもしただろう。そうした、日頃は、語られない広田人の物語を、語り部の会が中心となり、野外に想像上の広田人の邑と狩りの様子を案山子で再現し、館内は、広田の海中を美しくライトアップするなどして、体験するイベントを行った。また、種子島宇宙芸術祭 2019 で広田遺跡ミュージアム内に展示された千田泰広「Brocken5」、黒田恵枝「探求者たち」を夜間ライトアップすることで遺跡とアートのコラボレーションも試みた。

入館者数：250人

○企画展：写真から見る種子島・屋久島の発掘調査のあゆみ～盛園尚孝コレクション～
期　間：令和２年２月１日
～令和２年３月15日
内　容：盛園尚孝氏より寄贈された資料の展示公開を図ると共に、図録を作成した。
入館者数：360人

（２）イベント
○ GW 特別イベント「むかしのこどもの遊び体験」
期　間：令和元年５月５日（日）
場　所：体験学習室
体験料：無料
内　容：向井良隆さんなどを講師に、ペットボトルを利用した風車作りを新たに実施。また、竹笛、割り箸鉄砲づくり、けん玉、ぶんぶん駒、駒まわし、羽根つきなどを体験できるコーナーでは、両親や祖父母がお手本をみせると、子ども達も夢中になって昔ながらの遊びをする光景がみられた。

○広田遺跡語り部の会　主催　「広田の岩穴焚き」
期　日：令和２年３月８日（日）中止
場　所：広田の岩穴（国史跡広田遺跡公園近く）
参加料：無料
内　容：コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

第２節　教育・普及啓発

（１）広田遺跡ミュージアム　ジュニア学芸員
ジュニア学芸員は、小学校２年生～高校３年生までを対象に、種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業である。所定の課程を修了した受講生には、ジュニア学芸員認定証を発行している。
ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成26年度	19	5	0	24人
平成27年度	21	6	0	27人
平成28年度	28	8	1	37人
平成29年度	27	3	0	30人
平成30年度	53	0	0	53人
令和元年度	50	0	0	50人

令和元年度活動
第１回　令和１年６月９日（日）　開校式
「昔の遊びを体験しよう!」
講師：田渕川サナエ（広田遺跡語り部の会）
第２回　令和１年７月13日（土）
「広田川で遊ぼう、学ぼう!海・川の生き物と化石」
講師：向井良隆、平畠強（広田遺跡語り部の会）
第３回　令和１年９月８日（日）
「骨からわかった最新の広田人」
講師：足立達朗（九州大学）、高椋浩史（土井ヶ浜人類学ミュージアム）
第４回　令和１年10月20日（日）
「宇宙芸術を体験しよう!宇宙芸術作品「もけもけもの」ワークショップ」
講師：黒田恵枝（アーティスト）
第５回　令和１年11月24日（日）
「ドキドキ、土器体験!」
講師：小脇有希乃（広田遺跡ミュージアム学芸員）
第６回　令和１年12月８日（日）
「貝のひみつ」
講師：山野ケン陽次郎（熊本大学助教）
第７回　令和２年２月９日（日）
「ここまでわかった!種子島の古代!～海岸にながれついたモノからナゾをとく～」
講師：藤枝繁（鹿児島大学）、石堂和博（広田遺跡ミュージアム学芸員）
第８回　令和２年３月８日（日）　閉校式
「広田の岩穴焚き＆昔の焼き芋体験をしよう!」
（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
講師：広田遺跡語り部の会

（２）たねがしま古代塾
　たねがしま古代塾は、地域の歴史を学び、文化財等の大切さを知ることを目的として、平成26年度から開講し、以下の活動を行ってきた。この講座の受講生の中から、広田遺跡

語り部の会に加入した方もいて、着実に成果をあげている。

令和元年度活動
第１回目　開校式・特別講座
「発掘された種子島」
講師　大久保浩二先生（茎南小学校校長、前鹿児島県埋蔵文化財センター次長）
日時　６月29日（土）19時00分～20時30分
場所　南種子町中央公民館第一会議室
第２回目「自然と共生した島　－遺跡から読み解く－」講師　石堂和博（広田遺跡ミュージアム　学芸員）
日時　７月23日（火）19時00分～20時30分
場所　南種子町中央公民館第一会議室
第３回目「化学分析で分かった広田遺跡の謎 - 土器の分析 -」
講師　篠藤マリア（ハイデルベルク大学）、具志堅清大（沖縄県埋蔵文化財センター）
日時　８月３日（土）10時00分～12時00分
場所　広田遺跡ミュージアム体験学習室
第４回目「骨からわかった最新の広田人」
講師　足立達朗（九州大学）、高椋浩史（土井ヶ浜人類学ミュージアム）
日時　９月８日（日）13時30分～15時30分
場所　広田遺跡ミュージアム
第５回目「前方後円墳国家と広田遺跡」
講師　広瀬和雄（国立歴史民俗博物館名誉教授）
日時　11月12日（木）18時30分～20時30分
場所：南種子町中央公民館第一会議室
第６回目「広田遺跡貝製品の謎に迫る」
講師　山野ケン陽次郎（熊本大学）
日時　12月８日（日）15時00分～17時00分
場所　広田遺跡ミュージアム
第７回目　最終講座・閉講式（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

（３）広田遺跡ミュージアム　講座
（令和元年度）
特別講座「広田遺跡とオオツタノハ貝輪」
講師　忍澤成視（千葉県市原市教育委員会）
日程　令和元年９月26日
場所　広田遺跡ミュージアム

（４）学校講座、出前講座
５月16日　中種子町高齢学級どんぐり文化財案内（石堂）
５月17日　現和小学校　語り部案内
５月17日　榕城小学校　語り部案内
５月21日　東海大学　石堂案内
５月22日　南種子中学校　語り部案内、体験学習
５月31日　西野小学校　語り部案内
６月18日　大川小学校出前講座「西海の文化財」（石堂）
６月30日　茎南小学校　体験学習
７月３日　種子島中央高校歴史自然講座講師（石堂）
７月26日　鹿児島県立楠隼中学校　語り部案内
７月31日　熊毛地区社会科部会研修講師（石堂）
８月１日　職員研修（島間フィールドワーク、石堂）
８月19日　南種子町教職員理科部会講師（石堂）
９月27日　種子島中学校３年　語り部案内
10月18日　岩岡小学校　語り部案内、体験学習
10月24日　帝塚山中学校　語り部案内
10月24日　長谷小学校総合的な学習の時間（石堂）
10月28日　花峰小学校創立記念集会講師（石堂）
11月13日　榕城小学校　語り部案内
11月19日　安城小学校　語り部案内
12月７日　西海校区島内視察研修（石堂）
12月13日　西之高齢者学級文化財案内（石堂）
２月28日　大川小学校（小脇）

（5）　研修・博物館実習・職場体験等
・学校職員研修　7月29日～31日
長谷小学校教諭：神之薗恵美

・南種子中学校生徒による職場体験
5月22日～24日　林良平、浦門美空

第3節　管理・運営

（1）　広田遺跡語り部の会
広田遺跡語り部の会は、広田遺跡の発掘に実際に参加したり、発掘に参加した方の子孫であったり、たねがしま古代塾に参加し、島の歴史に興味をもったりした方など、10名で結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の、平成26年12月に結成され、それから3ヶ月間活動をした後、平成27年3月の館オープン以降は、広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。

○　広田遺跡語り部の会　会員　名簿
会長：長田君應、副会長：向井良隆　監事：長田隆幸、田渕川サナエ　会員：平畠強、佐伯圭子、峯山弘子、兵藤幸夫、日高久則
名誉会長：原南海雄、顧問：羽生源志

○令和元年度の活動内容
4月16日（火）4月定例会・ボランティア清掃　館及び広田遺跡公園の美化・清掃　年間計画話し合い
4月21日（日）山形市高瀬紅花生産組合ほか訪問
5月5日（日）GWイベント
5月21日（火）小園菜穂子さん歓迎会
5月23日（木）5月定例会・ボランティア清掃　井戸掘り・井戸整備、西之のクララを採集し、南限・北限植物コーナーに移植。
6月9日（日）ジュニア学芸員講師（田渕川）
6月10日（月）6月定例会・ボランティア清掃　館及び広田遺跡公園の美化・清掃
7月8日（月）7月定例会・ボランティア清掃館及び広田遺跡公園の美化・清掃
8月6日（火）8月定例会・ボランティア清掃　館及び広田遺跡公園の美化・清掃
9月10日（火）9月定例会・ボランティア清掃　館及び広田遺跡公園の美化・清掃
9月26日（木）忍澤先生特別講座
10月1日～19日千田泰広「Brocken5」製作手伝い
10月10日（木）北見美香氏アーティストトーク
10月18日（金）基い語ろう会と懇親会（長田、石堂）
10月19日（土）基い語ろう会現地案内（長田、石堂）
10月29～31日語り部の会自主研修旅行
11月6日（水）11月定例会・ボランティア清掃
11月28日（木）広田遺跡の集落探し
12月23日（月）12月定例会・ボランティア清掃　館及び広田遺跡公園の美化・清掃　年末大掃除　門松作り準備　忘年会
12月28日（土）門松作り、久保田准教授調査
1月15日（水）1月定例会・ナイトミュージアム予行
練習
1月18日（土）ナイトミュージアム開催
1月19日（日）ナイトミュージアム片付け、Brocken5撤収作業
2月4日（火）2月定例会・ボランティア清掃　井戸掘り　海岸清掃
2月19日（水）NHK「CYCLR AROUND JAPANA」撮影　瀬風呂実施
2月25日（火）語り部の会バス研修

（2）　視察等
・三重県度会郡大紀町商工会　行政視察
日時：7月23日　14：00～15：00
・鹿児島県熊毛支庁　行政視察
日時：9月29日　15：00～15：30
・鹿児島県熊毛支庁　行政視察
日時：10月18日　10：00～
・四国大学　教授　投石文子　観光資源の視察
日時：10月30日　12：00～
・鹿児島県教育委員会　視察
東條広光県教育長、島津公保委員、今村英仁委員、原之園政治委員、石丸恵子委員、堀江美智代委員

日時：11 月 6 日　9：00 ～ 10：00
・愛知県飛島村　友好都市児童交流団　視察
日時：12 月 24 日　10：00 ～ 12：00
・秋田県大館市　南種子町児童交流団　視察
日時：1 月 9 日　15：30 ～ 17：00
・鹿児島県立埋蔵文化財センター　行政視察
日時：2 月 5 日　10：00 ～ 11：00
・内閣府　総合海洋政策推進事務局　行政視察
日時：2 月 6 日　10：00 ～ 11：00

（3）広報
○テレビ番組
・番組名：「CYCLE　AROUND　JAPAN」
メディア：NHK　BS
放送日等：令和 2 年 2 月 19 日収録。放送日未定
内　　容：アメリカ出身のマイケル・ライスさんを旅人に、種子島・屋久島の文化を海外に発信する番組。広田遺跡語り部の会の瀬風呂焚きを収録。
○新聞・雑誌
南日本新聞
・2020 年 1 月 30 日朝刊
「アート驚く、夜の博物館　種子島・広田遺跡ミュージアム」
・2019 年 12 月 15 日朝刊
「漂着英国船員と島民の交流発表」
○ホームページ
・記事名：「WEB サイト全国子ども考古学教室」
作成者：NPO 法人むきばんだ応援団
メディア：ホームページ
内　　容：広田遺跡の子供向けの紹介。鹿児島県から 14 遺跡のみ選定された。
○博物館企画展等
・時遊館 COCCO はしむれ特別企画展「海をみつけた古代人－イブスキ人の起源－」
期　間：令和元年 12 月 7 日～令和 2 年 3 月 15 日
内　容：広田遺跡、横峯 C 遺跡などの紹介
○書籍
・TJMOOK『いまこそ知りたい天皇と日本の始まり』
発行者：株式会社宝島社
内　容：広田遺跡の写真紹介
○インターネット動画配信サイト
メディア：YOUTUBE　南種子町公式チャンネル
「種子島みなみたねチャンネル」
https:/www.youtube.com/channel/UCo9kLrG487zJyYTD0qt260g
・動画タイトル「たねがしま古代塾（広瀬和雄先生）
投稿日：2019 年 11 月 22 日公開
・「種子島宇宙芸術祭 2019　アートとダンスのコラボレーション（千田泰広さん× SU →さん）」
投稿日：2019 年 10 月 24 日公開
・動画タイトル「画家北見美佳アーティストトーク IN 種子島」
投稿日：2019 年 10 月 24 日公開
・動画タイトル「H- Ⅱ B ロケット 8 号機スタンバイ（広田海岸）」
投稿日：2019 年 9 月 11 日公開
・動画タイトル「たねがしま古代塾・第 1 回発掘された種子島」
投稿日：2019 年 7 月 10 日公開
・動画タイトル「南種子を空から見よっと！（広田遺跡）」
投稿日：2019 年 6 月 10 日
○町広報紙「広田遺跡ミュージアム便り」を連載
○広田遺跡語り部の会によるフェイスブック・インスタグラムでの情報発信

（4）文化財の保存・管理
重要文化財の運搬
　広田遺跡は、H- Ⅱ A 及び H- Ⅱ B ロケットの警戒区域に設定されているため、文化庁美術学芸課の指導により、ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化財センターに搬出することとなっている。
令和元年 9 月 24 日 (火)
ロケット打ち上げに伴う搬出
対応：石堂・小脇
令和元年 9 月 25 日 (水)
ロケット打ち上げ終了に伴う搬入
対応：石堂
令和 2 年 1 月 27 日 (月)
ロケット打ち上げに伴う搬出

対応：石堂、小脇

令和２年２月９日 (日)

ロケット打ち上げ終了に伴う搬入

対応：小脇、石堂

（５）その他

・広田遺跡ミュージアム床面ワックス業務委託実施（1 月 20 日）

・広田遺跡観光パンフレット作成

・広田遺跡誘導看板製作

・コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館（3 月 3 日～ 3 月 22 日）

第４節　調査・研究

（１）調査・研究

5 月 11 日～ 12 日、6 月 22 日、7 月 24 日、11 月 24 日～ 25 日　鹿児島大学久保田治助准教授による調査（対応：石堂）

5 月 26 日　科学研究費「3 ～ 7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」研究　代表者：木下尚子（熊大教授）「研究会」　場所：熊本大学
研究会参加者：石堂和博、小脇有希乃

5 月 12 日、7 月 31 日　種子島中央高校３年鎌田廉正氏とドラメルタン号共同調査（石堂）

6 月 27 日～ 29 日　種子島の盆踊調査事業「屋久島如竹踊調査」（石堂）

7 月 13 日～ 15 日　種子島の盆踊調査事業「横山の盆踊調査、調査委員会」（石堂）

7 月 16 日～ 18 日　科学研究費「3 ～ 7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」「九州大学総合研究博物館収蔵資料の調査」　場所：九州大学、
調査者、石堂

7 月 26 日　全国民俗芸能保存振興市町村連盟総会における事例発表「西之本国寺盆踊」発表者、石堂

8 月 2 日～ 4 日　科学研究費「3 ～ 7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」「土器班調査」場所：九州大学、調査者（篠藤、具志堅、石堂）

8 月 15 日～ 19 日　種子島の盆踊調査事業「西之本国寺盆踊調査、調査委員会」（石堂）

9 月 26 日～ 10 月 1 日　忍澤成視先生「オオツタノハ貝輪調査」（対応、小脇・石堂）

10 月 5 日～ 6 日　種子島の盆踊調査事業「願成就祭奉納踊調査、調査委員会」（石堂）

10 月 28 日　同志社大学水ノ江和同教授による資料調査

11 月 28 日　広田遺跡住居探し、分布調査（広田遺跡語り部の会、石堂）

1 月 25 日　島間の四方祭調査（石堂）

2 月 12 日～ 14 日　安室知先生調査対応（石堂）

2 月 26 日～ 28 日　種子島の盆踊調査事業「西之本国寺盆踊調査」（石堂）

「広田遺跡の研究」科研報告書執筆（石堂）

（2）研究報告
「種子島南種子町における海浜性ハンミョウの生息地について」

南種子町文化財保護審議会　委員　稗畠悦朗

はじめに

海浜性ハンミョウとは、海浜の裸地に生息するコウチュウ目ハンミョウ科の総称で、日本では、イカリモンハンミョウ、ハラビロハンミョウ、シロヘリハンミョウ、ヨドシロヘリハンミョウ、エリザハンミョウ、ルイスハンミョウの6種類が知られている（佐藤 2008）。

これらのハンミョウは、全国的に大変希少で、環境省のレッドデータリストに記載されているものも多い。種子島では、ルイスハンミョウを除く5種の海浜性ハンミョウの生息が確認されていて、海浜性ハンミョウの生息地として極めて重要であるとされる。また、一般に、内陸生のハンミョウとされるコハンミョウが、種子島では海浜地・内陸地の両者で確認される。

これらのうち、イカリモンハンミョウは、全国で石川県柴垣・甘田海岸、宮崎県の一部、鹿児島県の一部（志布志湾沿岸と種子島）にしか生息しないとされ、石川県では県の文化財に指定されている。また、ヨドシロヘリハンミョウも絶滅が危惧されているハンミョウで、その生息地は、和歌山県では県の文化財に指定されている。

本稿では、こうした希少な海浜性ハンミョウの南種子における生息分布を示し、保護すべき生息地について述べるものである。

海浜性ハンミョウの種類と特徴

まず、種子島に生息する海浜性ハンミョウであるイカリモンハンミョウ、ハラビロハンミョウ、シロヘリハンミョウ、ヨドシロヘリハンミョウ、エリザハンミョウ及び種子島においては海浜地でも生息が確認されるコハンミョウの特徴について述べたい。

イカリモンハンミョウ（***Cicindela anchoralis*** **Chevrolat**）は、体長12～15mmほどで、体背面は茶褐色、上翅には白いイカリ状の斑紋を持っている。幼虫は、海浜植物帯より汀線側の砂地に垂直に穴を掘り生息し、成虫になるまで2～3年かかるとされる。成虫は6月下旬頃より湿り気のある砂地に出現し、8月までに交尾、産卵するとされるが、少数の個体は9月上旬まで見られる。全国で3地域（石川県柴垣・甘田海岸、宮崎県の一部、鹿児島県の一部）にしか生息しないとされ、石川県では県の文化財に指定されている。種子島のイカリモンハンミョウは、石川県のものより斑紋が広く、明瞭であり、なだらかな砂丘浜に生息している。鹿児島県レッドデータリスト（2016改訂版）では、絶滅危惧（1）類に、環境省レッドリスト2019では、絶滅危惧IB類（EN）に選定されている。

ハラビロハンミョウ（***Cicindela sumatrensis*** **niponensis　Thunberg, 1781**）は、体長13mm前後で、体背面は黒っぽく鈍い金属光沢があり、白い斑紋を持っている。成虫は秋に羽化して越冬するようで、春に交尾、産卵するとされ、海浜部などの湿った砂丘地域に生息する。本州では新潟県以西に分布し、九州、種子島にも分布するが、産地は点在しているにすぎない。鹿児島県では、大隅半島内之浦で2002年にオス1個体が採集されているものの、以後確認されておらず、薩摩半島でも小規模な生息地が点在するに過ぎない。屋久島では生息記録はない。鹿児島県レッドデータリスト（2016改訂版）では、絶滅危惧Ⅱ類に、環境省レッドリスト2019では、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されている。

シロヘリハンミョウ（***Cicindela yuasai*** **Nakane, 1955**）は、体長9～12mmほどで、体背面は緑～黒色を呈する。上翅の側縁部と翅端は細く白く縁取られる。雌の上翅には，中央付近に1対の光沢のある紋が見られる。日本では千葉県を北限とした本州，四国，九州，対馬，屋久島，種子島，黒島に名義タイプ亜種が分布し，伊豆諸島とトカラ列島以南の南西諸島にそれぞれ別亜種が分布するとされる（長谷川 2014）。種子島では、海浜砂丘の湿った岩場で確認されることが多い。環境省レッドリスト2019では、準絶滅危惧（NT）に選定されている。

ヨドシロヘリハンミョウ（***Cicindela inspecularis*** **W.Horn, 1904**）は、体長9～12mmほどで、上翅の側縁と翅端に白帯がある点、シロヘリハンミョウと共通するが、その白帯がやや太いことに特徴がある。瀬戸内

海を巡る一帯と九州の海岸線に局地的に分布しているが、近年減少が著しいとされる。名称は、大阪府淀川で最初に確認されたことに由来する。種子島では、その生息地のほとんどがメヒルギ科のマングローブ林やその河口部である。鹿児島県レッドデータリスト（2016改訂版）では、絶滅危惧（１）類に、環境省レッドリスト2019では、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されている。また、和歌山県ではその生息地が県の文化財に指定されている。

エリザハンミョウ(*Cicindela elisae elisae* Motschulsky, 1959) は、体長9～11mmほどの比較的小さなハンミョウで、暗銅色を呈し、上翅に強く湾曲する帯がある。全国的に分布し、ヒメハンミョウとも呼ばれる。

コハンミョウ（*Cicindela supecularis* Chaudoir, 1865）は、体長11～13mmほどで、暗銅色を呈し、上翅に細い白帯と小さな白紋がある。全国的に分布する。コハンミョウは海浜地以外にも生息する。

海浜性ハンミョウの生息地

私が、海浜性ハンミョウに興味を持ったのは、25年ほど前に友人が中種子町長浜などでイカリモンハンミョウなどの標本採集を行ったことに関わってからである。

その後、中種子町岩岡小学校に赴任された福元正範氏が全島調査をされ、その成果が2005年に発表されたことを知り（福元2005）、益々興味を覚えるようになった。

海浜性ハンミョウは、全国的に、近年、海岸堤防の築造や四輪駆動車等による海岸走行、海浜砂の採取等により生息地が奪われ、激減している。

そこで、種子島の南種子地域における海浜性ハンミョウの生息状況を確認するため、平成30年度に複数回にわたり生息地の確認を行った。調査は、7月～8月にかけて行い、特に国レッドデータリストに記載されているイカリモンハンミョウ、ヨドシロヘリハンミョウの両者が混生する生息地がないか注視した。なお、本調査は、一般に内陸性とされるコハンミョウも含めて調査を行っている。

浜田海岸～千座の岩屋周辺

ヨドシロヘリハンミョウを除く、シロヘリハンミョウ、エリザハンミョウ、イカリモンハンミョウ、ハラビロハンミョウ、コハンミョウが採集された。今回行った複数回の調査で、ヨドシロヘリハンミョウは確認されなかったが、2003～2004年にかけての福元正範氏による調査では褐色型が確認されている。今回確認された5種は、千座の岩屋周辺に混在し、浜田海岸広域や大浦川河口域では、イカリモンハンミョウのみが確認された。

なお、本調査に付随して、中種子町阿嶽川河口のマングローブ域の砂地にて、ヨドシロヘリハンミョウの褐色・緑色個体の両者をほぼ同数確認した。後述する郡川河口域の生息状況とあわせて考えれば、種子島においては、ヨドシロヘリハンミョウは、マングローブ域の砂地を主な生息域としている可能性が高い。

大崎～竹崎海岸

本生息地のうち、大崎海岸はロケットの射場域内にあるためJAXAに事前に許可を求め、調査を実施した。同海岸では、轟川河口付近にてイカリモンハンミョウの生息を確認し、吉信岬付近の岩場にてシロヘリハンミョウの生息を確認した。また、竹崎海岸では、ハラビロハンミョウ、シロヘリハンミョウ、エリザハンミョウが確認されている。

広田海岸

本生息地では、広田川河口周辺で、イカリモンハンミョウのみが確認された。

前之浜・一陣浜（郡川河口周辺）

本生息地は、自動車等の乗り入れの困難な大変良好な生息環境が保たれている。但し、これは種子島の海浜地全般に共通する課題であるが、漂着ゴミの増加が課題として考えられる。希少種であるイカリモンハンミョウ及びヨドシロヘリハンミョウが、ヨドシロヘリハンミョウはマングローブ帯に、イカリモンハンミョウは河口付近の砂地で認められ、両者の明瞭な棲み分けを確認した。また、ハラビロハンミョウとエリザハンミョウとの棲み分けも確認されている。本生息地では、巣穴も良好に確認された。海浜性ハンミョウの巣穴は通常、直径3～5mmで、深さが20～30cmを測る。場所によっては、10～15cmの場合もある。成虫・幼虫共に肉食で、幼虫は巣穴を頭でふさぐように待ち構え、小動物を巣穴に引きずり込み捕食する。成虫は長く早い足で捕食する。

まとめ

海浜性ハンミョウの生息地を確認したところ、浜田海岸～千座の岩屋周辺で5種、郡川河口の前之浜・一陣浜で4種、広田海岸で1種、大崎・竹崎海岸で3種が確認された。最も多くの種が確認された生息地は浜田海岸～千座の岩屋周辺域であったが、同地点では、希少種であるヨドシロヘリハンミョウが確認されなかった。また、生息域が非常に狭く、5種のハンミョウの明瞭な棲み分けも認められなかった。広田海岸では1種のみ、大崎～竹崎海岸ではヨドシロヘリハンミョウ、コハンミョウを除く4種が確認された。

一方で、郡川河口の前之浜・一陣浜の生息地では、環境省レッドリスト2019で絶滅危惧IB類（EN）に選定され、石川県では生息地が県指定を受けているイカリモンハンミョウ及び環境省レッドリスト2019で絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定され、和歌山県で生息地が県指定にされているヨドシロヘリハンミョウという希少な2種が、ヨドシロヘリハンミョウはマングローブ帯に、イカリモンハンミョウは河口付近の砂地で認められ、両者に明瞭な棲み分けが認められた。更に、ハラビロハンミョウとエリザハンミョウとの棲み分けも確認されている。

また、この生息地は、種子島における南端の海浜性ハンミョウの生息地であり、そのうちのいくつかの種では、日本における南限の生息地とみられる。その他、県が指定する生物群集の重要な干潟として地域指定がされるなど、種子島における重要な干潟域である。また、本生息地のような広いなだらかな砂浜の波打ち際で背後に豊かな海浜性の植生が連続する自然環境は、海浜性ハンミョウに限らず、多様な生物種の生息地として後世に残すべきものである。

このように、郡川河口の前之浜・一陣浜の生息地には、4種の海浜性ハンミョウが棲み分けを伴い確認され、特に希少種であるヨドシロヘリハンミョウとイカリモンハンミョウの両者を含む生息地として重要なだけでなく、これらの種の日本における南限の生息地である可能性が高い。

よって、本生息地は、学術的な価値が高く、南種子町の文化財に指定すべきと判断される。

文献

芦田久　1997 「ヨドシロヘリハンミョウはマングローブ帯にも生息する－種子島における発見－」『月刊むし No.318』（有）むし社
永野篤弘・芦田久　1998 「種子島におけるヨドシロヘリハンミョウの第2の産地」『月刊むし No.330』（有）むし社
榎戸良裕　2000 「鹿児島県の海浜性ハンミョウ類の知見」『SATSUMA Vol.50 No.121』鹿児島県昆虫同好会
福元正範　2005 「種子島におけるハンミョウ類の採集」『SATSUMA No.133』鹿児島県昆虫同好会
佐藤綾　2008 「海辺のハンミョウ（コウチュウ目：ハンミョウ科）の現状と保全」『保全生態学研究 13(1)』 日本生態学会
榎戸良裕　2014 「鹿児島県のハンミョウ科－今までに蓄積されている情報と課題－」『SATSUMA No.151』鹿児島県昆虫同好会
長谷川道明　2014 「神島で確認されたシロヘリハンミョウ」『豊橋市自然史博物館研報 No24,31-32』
榎戸良裕　2017 「種子島で、背面が青緑色を帯びているハラビロハンミョウ成虫を採集・撮影」『SATSUMA No.159』鹿児島県昆虫同好会
鹿児島県　2016 『鹿児島県レッドデータリスト』
環境省　2019 『環境省レッドリスト 2019』

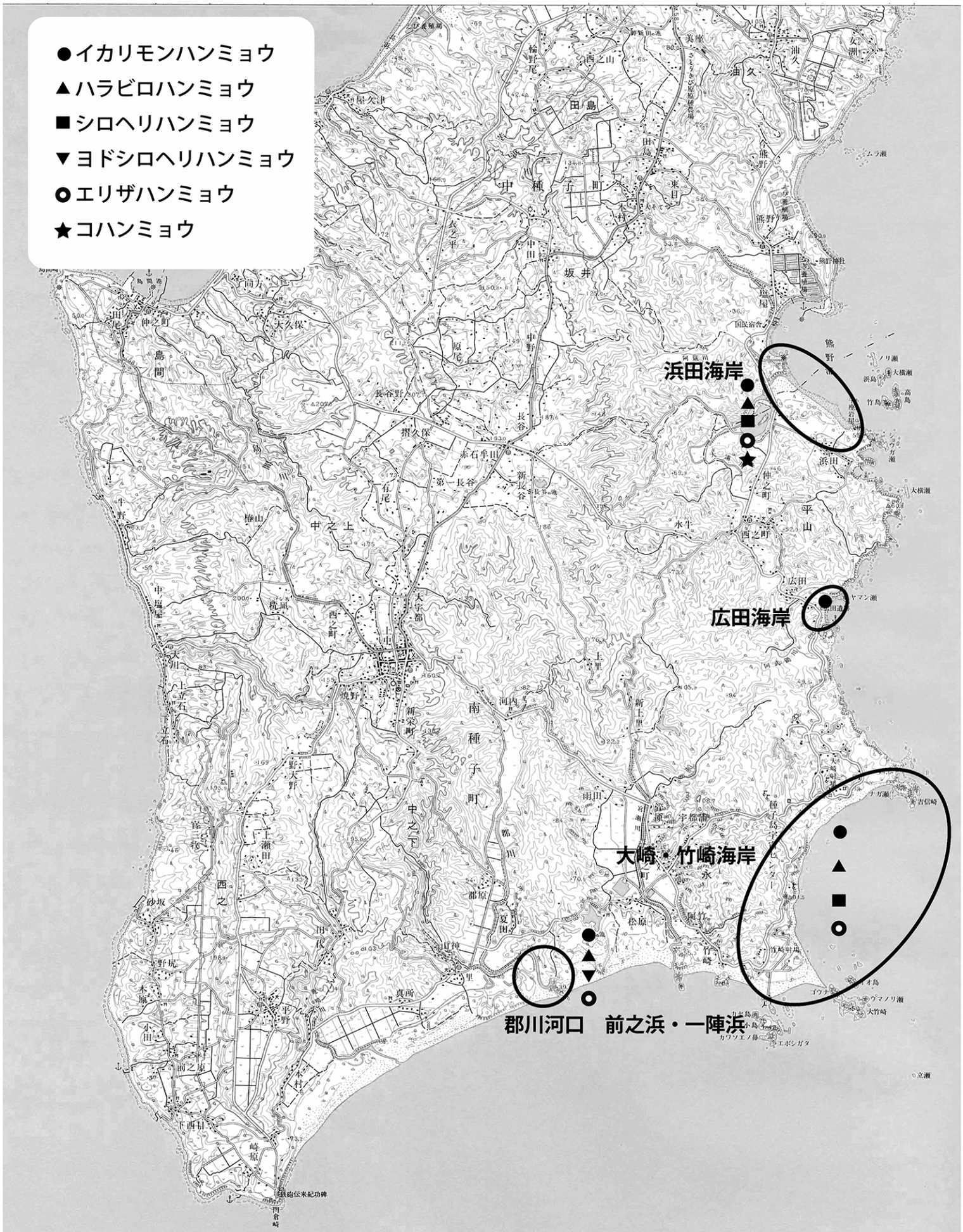


図１　南種子町における海浜性ハンミョウの生息地

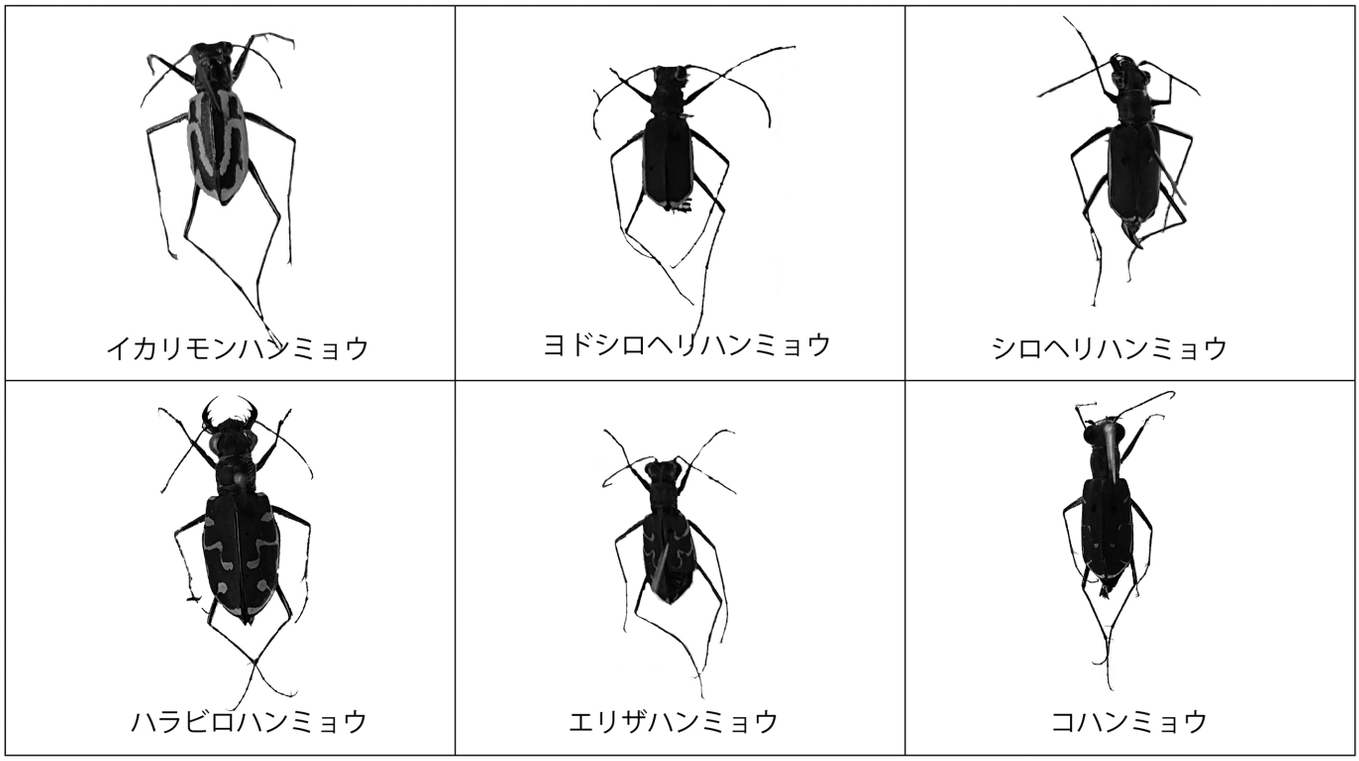


写真１　種子島南種子に生息する海浜性のハンミョウ

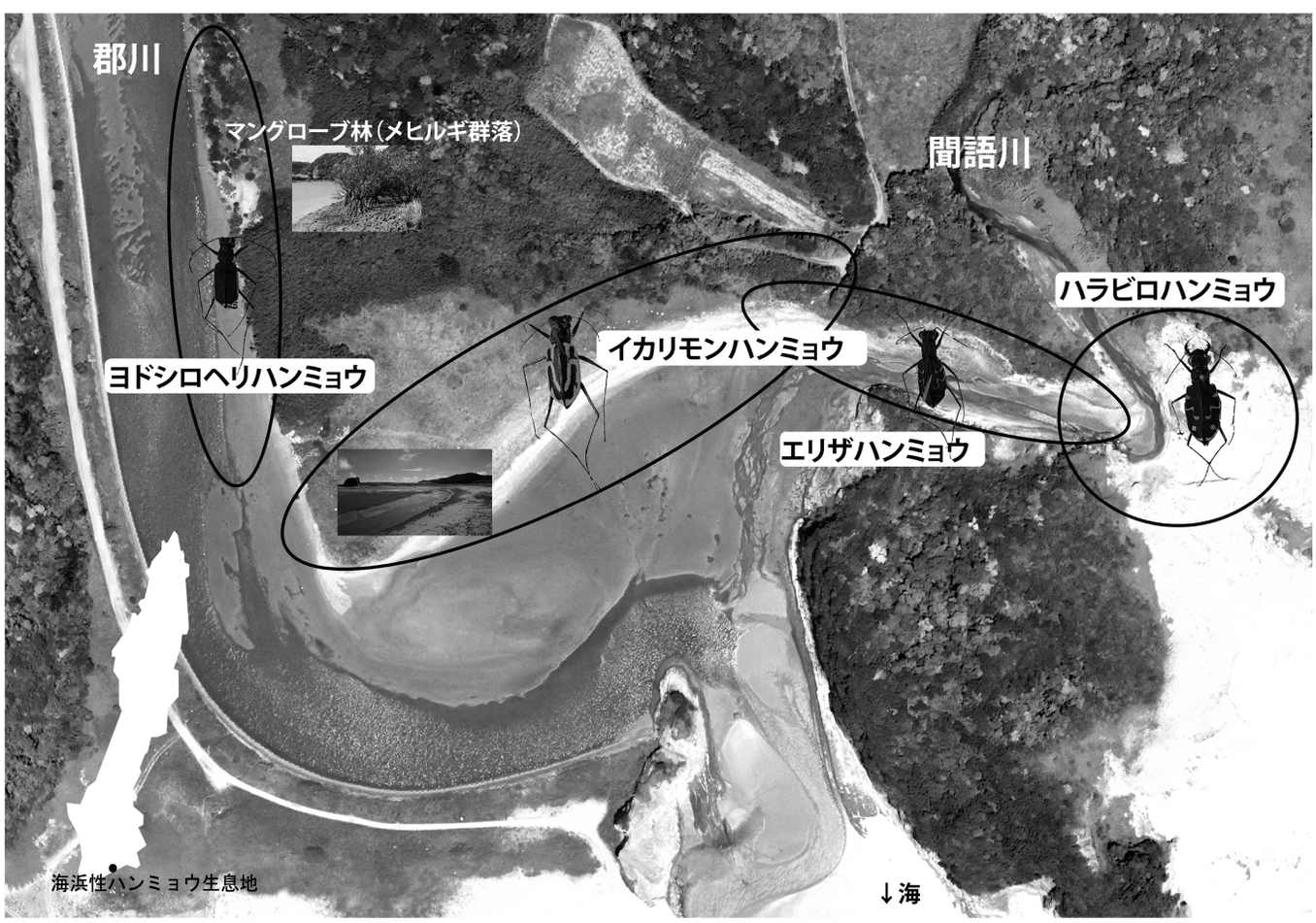
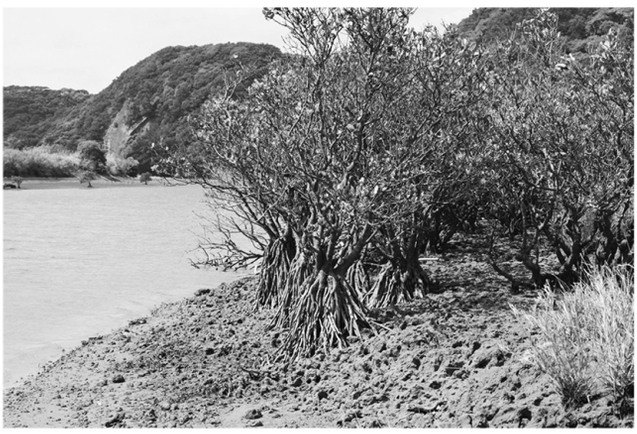


写真２　前之浜・一陣浜における生息地（郡川河口周辺）

1. 郡川河口のイカリモンハンミョウ生息地

2. 郡川河口のハラビロハンミョウ
エリザハンミョウ生息地



3. 郡川河口のヨドシロヘリハンミョウ生息地
（マングローブ帯）

4. 郡川河口の生息地

5. 大崎海岸の生息地

6. 浜田海岸のイカリモンハンミョウ生息地

7. 広田海岸のイカリモンハンミョウ生息地

8. 中種子町阿嶽川の生息地（参考）

写真 3　南種子におけるハンミョウの生息地

写真図版１

写真１　GW 昔のこどもの遊び

写真２　昔のこどもの遊び体験

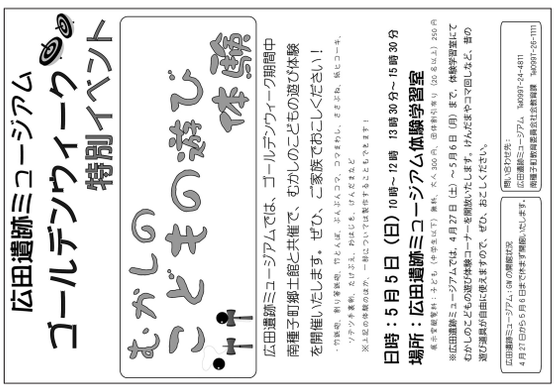


写真３　GW イベントの告知

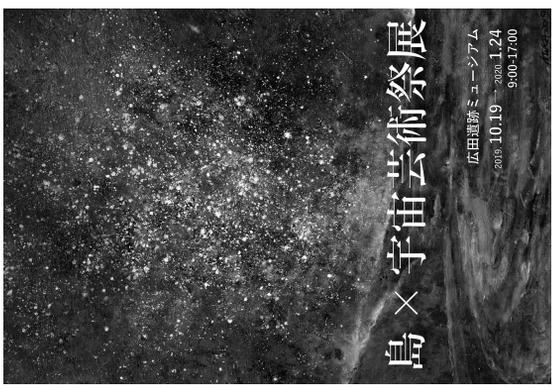


写真４　島×宇宙芸術祭展フライヤー（表）

写真５　島×宇宙芸術祭展フライヤー（裏）

写真６「島×宇宙芸術祭」北見美佳アーティストトーク

写真７　島×宇宙芸術祭

写真８「島×宇宙芸術祭」黒田恵枝「もけもけもの」

写真図版２

写真９　ナイトミュージアムフライヤー

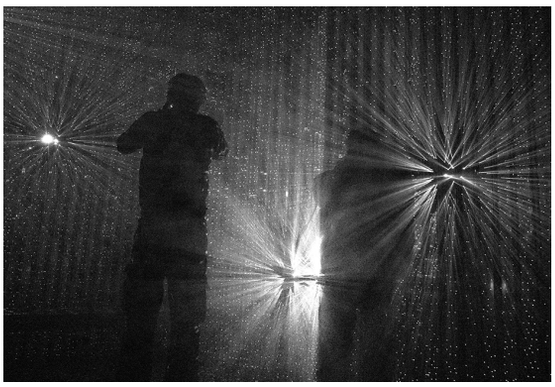


写真 10　ナイトミュージアム千田泰広「Brocken5」

写真 11　作品設置風景

写真 12 ナイトミュージアムの様子

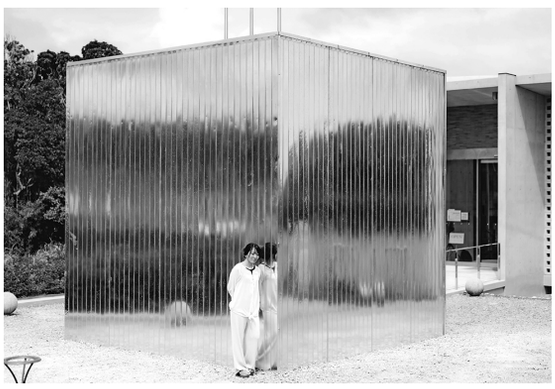


写真 13　千田泰広「Brocken5」

写真 14　黒田恵枝「探求者たち」

写真 15　盛園尚孝コレクション展

写真 16　盛園尚孝コレクション展チラシ

写真図版３

写真 17　下野敏見名誉館長による種子島の盆踊調査

写真 18　下野敏見名誉館長と西之本国寺盆踊のみなさん

写真 19　広田遺跡ミュージアム協議会

写真 20　木下尚子熊本大学教授との科学研究

写真 21　大久保浩二先生による「たねがしま古代塾講座」

写真 22　忍澤成視氏による特別講座

写真 23　広瀬和雄先生による特別講座

写真 24　ジュニア学芸員講座（篠藤マリア先生）

写真図版４

写真 25　語り部の会による井戸の復元

写真 26　語り部の会ボランティア

写真 27　広田遺跡語り部の会定例会

写真 28　南種子中学校生徒職場体験

写真 29　ナイトミュージアムのスタッフ

写真 30　語り部の会による門松作成

写真 31　ナイトミュージアム後のアーティストとの交流

写真 32　NHK「CYCLE AROUND JAPAN] の撮影風景

写真図版５

写真 33　ジュニア学芸員での講師

写真 34　草木染めの準備

写真 35　語り部の会による広田遺跡分布調査

写真 36　企画展講師「北見美佳」氏と語り部の会

写真 37　山形市の紅花グループと語り部の会の交流

写真 38　語り部の会研修（小浜遺跡）

写真 39　語り部の会研修（種子鋏見学）

写真 40　語り部の会自主研修旅行

広田遺跡ミュージアム館報　第４号

発行日　令和２年３月30日

編集・発行
広田遺跡ミュージアム
〒891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山2571
TEL 0997（24）4811
印刷所
㈱種子島新生社印刷
〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表16736番地1
TEL 0997（22）0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM

Volume 4

March 2020

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM